

令和6年度 第1回

進路説明会



令和6年6月27日(木)

14:15~15:05

川崎市立東高津中学校 体育館

説明会次第

- 1 学校長あいさつ
- 2 今年度の進路について
 - ①進路の基本的な考え方
 - ②今年度の主な進路日程
 - ③進路の種類
 - ④進学希望者の主な受検(験)パターン
 - ⑤進路情報の集め方
 - ⑥就学を支援する制度
- 3 質疑応答

1 進路の基本的な考え方

中学校卒業とともに、生徒のみなさんは9年間の義務教育を終えます。「義務教育」とは、社会で生きていくために必要な力を身に付ける教育で、保護者の方が生徒のみなさんに9年間の普通教育を受けさせる義務があるものです。つまり、中学校卒業後、生徒のみなさんは自分の力で歩いていくことになります。だからこそ、自分の将来をしっかりと考え、これからの進路を決定していく必要があります。

中学校卒業後の進路は大きく分けて、「進学」または「就職」の2つの道に分かれます。

「進学」の場合、高等学校や高等専門学校、各種学校、専修学校など、自分の適性・興味などに応じて幅広い選択肢があります。「就職」の場合も自分の適性などから職種を考えます。

どちらの場合も大切なことは、「自分の意志で進路を選択する」ということです。そうすることで目標ができ、その目標に向かって努力することができます。

しかし、中学生は自分一人ですべてを選択したり決定したりできません。保護者の方の支援があるからこそ、未来へ歩むことができます。自分を最も支援してくれ、また人生の先輩でもある保護者の方としっかりと話し合い、相談したり意見を聴いたりしながら進路を選択・決定していただく。

保護者のみなさまには、お子様の気持ちを受け止めつつ、興味や適性、長所、特技などが生かされ、これからたくましく生きていくためのサポートをお願いいたします。

今後は、進路決定に向けた動きが加速します。初めて自分の進路と向き合うことに不安や焦りが生じることもあるでしょう。そんなときに大切なことは「今やるべきこと」をしっかりと行うことです。「継続は力なり」という言葉のとおり、日々の授業や家庭での学習を大切にすることで着実に力がつきます。また、部活動や委員会活動、校外の活動などに全力で取り組むことは、達成感と自信につながります。よく「不安だから睡眠時間を削って深夜まで勉強する」「やるべきことをやらずに勉強だけする」ということを聞きますが、追い込まれた状態での勉強は、体調面にも精神面にも悪循環をもたらします。「今やるべきこと」をしっかりと見極め、時間を計画的に活用していくことこそ、目標に近づく近道です。今からでも大丈夫です。ぜひ、自分の生活を見直し、取り組んでいきましょう。

中学校では、生徒一人一人が希望の進路へ進めるように「進学指導」ではなく、将来を見据えた「進路指導」を行います。進路指導に関しては、学年職員を中心に学校全体で行います。学級担任が窓口となり、生徒や保護者の方と相談を進めていきます。わからないこと、不安に思っていることがあれば、遠慮なくご相談ください。

2 今年度の主な進路日程

月	学校行事予定・主な進路日程	生徒・保護者の方の動き
6	前期中間テスト 第1回進路希望調査 配付・回収 第1回進路説明会	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の夢や得意なこと、適性などから、卒業後の進路について考え、進路に関する情報を収集してください。 (受験情報誌、HP、パンフレット等)
7	三者面談 「公立高校募集案内」配付	<ul style="list-style-type: none"> ■大まかな進路先を考えてください。 例 公立または私立・・・普通科または専門学科など
8	夏休み 公・私立高校説明会、学校体験	<ul style="list-style-type: none"> ■夏休みに1回は説明会や体験授業に参加してください。 (夏休み明けに、生徒はレポートを提出します。)
9	前期期末テスト 私立高等学校募集要項、推薦基準など順次決定 第2回進路説明会	<ul style="list-style-type: none"> ■前期評価を参考に進路先を絞り、学校説明会や見学会・体験授業、文化祭などに参加してください。 ※公立高校を希望する場合は、私立の併願校についても検討し、説明会に参加してください。
10	前期評価・評定通知 第2回進路希望調査 配付・回収 第1回進路面談	<ul style="list-style-type: none"> ■国立、私立高校は説明会にて学校案内や募集要項、願書や推薦書などを入手してください。
11	後期中間テスト 「公立高校志願の手引き」配付 進路用写真撮影(学校にて撮影) 進路用評価・評定通知 第3回進路希望調査 配付・回収(最終)	<ul style="list-style-type: none"> ■参加した学校説明会や前期の成績などを考え、志望校を数校に絞ってください。 ■進路用成績をもとに、志望校を決定してください。 ※志望校は、必ず見学してください。
12	第2回進路面談(最終決定) 調査書等作成願い 配付・回収 私立高等学校入試相談 面接練習開始	<ul style="list-style-type: none"> ■第2回進路面談で進路希望先を最終決定してください。 ■私立高校の推薦や併願による受験では、多くの場合「入試相談」を実施します。入試相談は、中学校の教員が高校に相談する形式で行われます。 ■国立、私立の募集要項・調査書・推薦書等を担任に手渡してください。調査書・推薦書は、担任が預かり作成します。募集要項はコピーを取った後、返却します。
1	私立高校推薦 出願・入試・発表 私立高校一般 出願 公立高校出願	<ul style="list-style-type: none"> ■公立高校および私立高校の多くはWeb出願です。各ご家庭でミスのないように手続きをしてください。
2	学年末テスト 公立高校志願変更 私立高校一般 入試・発表 公立高校共通選抜 学力検査/特色検査 公立高校共通選抜 追検査 公立高校共通選抜 合格発表	<ul style="list-style-type: none"> ■私立の併願校については、延納手続き(入学金などの支払いを公立高校合格発表後まで延ばす手続き)の有無や方法についてご確認ください。 ■公立・国立・私立ともに、進路決定後は期日までに速やかに入学手続きを行ってください。
3	公立高校全日制二次募集出願 卒業証書授与式 公立高校全日制二次募集入試・発表 公立高校定通分割選拔出願 公立高校定通分割選抜入試・発表 公立高校定通分割二次募集出願 公立高校定通分割二次入試・発表	<ul style="list-style-type: none"> ■二次募集は定員に満たない学校で実施されます。二次募集は志願時において国公立高校の合格者になっていない者のみ志願資格を有します。 ■県立川崎高校と市立川崎高校を含む<u>昼間定時制</u>高校では定通分割選抜は行われません。



3 進路の種類

1. 進学

高等学校

全日制・定時制・通信制の各課程があります。全日制は、昼間に通学し、3年間で卒業します。定時制は通常、夜間に授業を受けて4年間で卒業しますが、昼間に授業を受けられたり、3年間で単位を取って卒業できたりする学校もあります。通信制は、自宅でレポートを作成して提出し、決まった期間だけ通う学校と、通いながら単位をとる学校があります。

また、**学年制**と**単位制**があります。学年制は、学年の区分があり、1年ごとに必要な単位数を修得して進級し、卒業します。単位制は、学年という区分がなく、必要な単位を3年間の中で修得することで卒業できます。

学科は、**普通科**、**専門学科**、**総合学科**などがあります。普通科は、国語、社会、数学、理科、英語などの普通教科を重点に学習します。専門学科は、普通教科と1つの分野の専門科目を学習します。総合学科は、普通教科と専門教科を様々な科目の中から選択して幅広く学習します。

高等専門学校

実践的・創造的技術者を養成することを目的とした高等教育機関です。5年間で、短期大学卒業の資格まで取ることができ、専攻科への進学のほか、大学に編入することもできます。一般科目と専門科目をバランスよく配置した教育課程により、技術者に必要な豊かな教養と体系的な専門知識を身に付けることができます。学科は工業系と商船系に分かれています。

高等専修学校

職業に必要な能力を育成することを目的とする学校で、工業、医療、衛生、商業実務、服飾・家政、文化・教養の部門などの専門教育を行っています。これらの高等専修学校の中には、通信制高等学校と連携し、専修学校に入学すると同時に高等学校にも入学できる学校が多くあるため、修業年限の3年が終わると高等学校卒業の資格も取ることができます。また、高等学校卒業資格ではありませんが、大学入学資格制度を持っている学校もあります。

上記の中には、就職しながら学ぶことができる高等学校もあります。また、中学校時代の成績や出席状況にこだわらずに門戸を開いている技能連携校(高等専修学校)やサポート校では、通信制高等学校と連携して高等教育を行い、高等学校卒業資格を得ることができます。このように、進学する学校のスタイルは多様化しており、適切に情報収集を行うことで、自分にあった学校を見つけることができます。

2. 就職

就職する場合には、ハローワーク(公共職業安定所)を利用する場合と縁故(家族や知り合い)を利用する場合の2つが考えられます。今年度のハローワークにおける新規中学校卒業者の求人申し込みの受理は、令和6年6月1日から開始されました。また、推薦および選考開始日は、令和6年1月1日以降であり、採用内定の開始についても同日以降となっています。

中学校卒業見込み者の求人数はかなり少なくなっており、職種も限られています。また、短期間でやめてしまう人が多いという事実もあります。このような現状から、就職を希望する場合には、家族や先生はもちろん、ハローワークの職員からも詳しく話を聴き、情報収集することが大切です。

また、職業訓練校で資格の取得や専門知識を身に付けて就職を目指す方法もあり、就職できる可能性を上げることができます。しかし、応募条件を「高卒以上」としている企業がほとんどであり、職業訓練を受ければ必ず就職できるというわけではありません。

4 進学希望者の主な受検(験)パターン

① 公立第1志望+私立併願

- ・公立高校を第1志望とし、私立校を併願校として受験します。
- ・公立に合格できなかったときは、併願校に必ず進学します。12月中旬に私立高校との事前相談がありますので、11月末までには併願校を決定してください。

② 私立推薦

- ・私立高校を第1志望とし、推薦基準をクリアしたうえで、中学校長の推薦を得られる場合(日頃の生活態度や学習への取り組み姿勢が推薦に値すると判断された場合)に推薦受験ができます。
- ・12月中旬に私立高校との事前相談がありますので、11月末までには受験校を決定してください。
- ・試験と合格発表は1月中旬から下旬に行われます。他校は受験せず、合格した場合は必ずその高校に進学します。

③ 私立一般(オープン)受験

- ・推薦制度がない私立高校や推薦基準をクリアできなかった私立高校を受験したい場合などに利用する受験方法です。
- ・オープン受験する私立高校を第1志望とする場合、私立併願可能な私立併願校を決めておきます。
※私立併願を認めていない高校も多くありますのでご注意ください。
- ・オープン受験する高校を第1希望にする場合、公立高校を第2志望などで受験することもできます。ただし、第1志望の私立に合格したときは、合格手続き後、公立への出願(または受検)を取り消します。
※公立高校を受検して合格した場合、原則、合格後の取り消しはできません。

私立高校(選抜方法の種類)		内申等の基準	学力試験	他校との併願
推薦入試 (中学校長の推薦書を提出)		○	×	できない。
一般入試 (学力試験・面接)	単願(専願)	○	○	できない。
	併願	○	○	私立高校との併願可能な高校が増えているが、公立高校のみ併願可能という高校も多くある。
	一般(オープン)	×	○	公立・私立ともに可能。
一般入試 (書類選考)	単願(専願)	○	×	できない。
	併願	○	×	私立高校との併願可能な高校が増えているが、公立高校のみ併願可能という高校も多くある。



④ 公立のみ受検

- ・公立高校を第1志望とし、公立高校のみを受検します。
- ・公立に合格できなかったとき(当日の体調不良などによる欠席も含む)のことを考え、公立の定通分割選抜、または公立の全日制二次募集、私立の二次募集(いずれも二次募集があった場合)、就職などから進路決定の方向性を事前に決定しておきます。

公立高等学校については「特別募集」がございます。志願資格(抜粋)をご確認ください。

海外帰国生徒特別募集

原則として、保護者の勤務等の関係で、継続して2年以上外国に在住して帰国した日が令和4年4月1日以降の者とする。

在県外国人等特別募集

外国の国籍を有する者で、入国後の在留期間が通算6年以内の者(令和7年2月1日現在)とする。

なお、日本国籍を取得して6年以内の者(令和7年2月1日現在)は、外国の国籍を有する者とみなす。

インクルーシブ教育実践推進校特別募集

知的障がいのある者であって、かつ、高等学校での学習や生活について理解し、入学の意欲のある者とする。

5 進路情報の集め方

高等学校等に通うのは自分自身です。自ら興味をもって、情報を入手するようにしましょう。ほとんどの学校がインターネットで説明会等の情報を公開しています。必ず各学校のホームページで確認しましょう。各校のホームページには、教育理念や校風、特色ある取組、教育課程など情報が掲載されています。私立高校においては、すでに募集要項を掲載しているところもありますので、こまめにチェックしてください。

学校に届けられた進路情報は、2階廊下に掲示していきます。

高校見学や体験に参加しましょう

自分の目で見て、肌で感じたことを大切にしながら進路を考えていきましょう。夏休みに興味がある学校をできれば複数校見学し、比較することによって自分の進路をより明確化させていきましょう。見学することによりイメージがわき、明確な目標意識をもって学習に取り組むことができるようになります。次の点に注意して見学等に参加してください。

試験の第一歩です。「高校の先生に見られている」という意識をもって臨みましょう。

- ・制服をしっかりと着て、身だしなみに注意しましょう。
- ・当然ですが、自転車で高校見学に行くのはNGです。
- ・生徒手帳、筆記用具、上履きや下足入れなど、必要なものを必ず持っていきましょう。また、初めて行く場合は、高校の地図を持っていきましょう。
- ・言葉遣い等に気を配り、かばんにつけたキーホルダー等ははずしていきましょう。
- ・元気よく挨拶をし、話の聴き方（話している人の目を必ず見る、など）に注意しましょう。

時間に遅れないようにしましょう。

- ・受付開始時間には、学校に到着しているように心がけましょう。もし、交通機関などの事情で遅刻してしまいそうな場合は、高校に電話し、「現在どこにいて、どのような状況で遅刻してしまいそうなのか」を連絡しましょう。
- ・万が一欠席する場合は、直接高校に電話をして事情を説明しましょう。当たり前ですが、無断欠席を絶対にしてはいけません。

しっかりと話を聴いてきましょう。

- ・学校案内やインターネット等で事前に調べ、質問事項をまとめておきましょう。質問を受け付ける時間があると思いますので、勇気を出して質問しましょう。また、個人的にお話をした場合は、相手の先生のお名前を覚えて（メモして）おきましょう。

<学校見学や体験授業で見てくるべきポイントの例>

<生活面>

校則・制服・施設や設備
在校生の雰囲気
通学時間や経路

<学習面>

カリキュラム
時間割 補習授業
進路状況

<課外活動>

部活動の種類や様子
学校行事
(体育祭や文化祭)
資格取得のための支援

受検(験)する学校については、必ず見学に行ってください。説明会等への参加を必須としている学校があります。また、中学校から高校等への連絡が必要な場合があります。その場合は、事前に担任までご相談ください。

「高校の選び方がわからない」という人へ

晶文社「高校受験案内2025」

高校の情報が半ページから1ページにまとまって掲載されています。

公立高校については、昨年度の選抜方法、応募状況、合格のめやす、併願校の例などが掲載されています。

私立高校については、応募状況、入試日程、昨年度の推薦・併願の内申基準などが掲載されています。

創刊65年目を迎える本です。はじめて高校受験を迎える方におすすめします。



神奈川県公立高等学校の特色が知りたい方へ

神奈川県公立高等学校等特色紹介「輝けきみの明日 ― 行きたい・知りたい公立高校」が神奈川県教育委員会のホームページにデータ掲載されております。気になる高校の情報をぜひチェックしてください。

URL：https://www.pref.kanagawa.jp/docs/dc4/tokushoku/hsw/kagayake_.html

二次元コード：



高校の情報が掲載された冊子など（3年生に配付済み）

P17をご覧ください。

6 就学を支援する制度

就学を支援する制度はたくさんあります。今年度の案内が来ましたら、リーフレット等を配付いたします。ご質問等ございましたら、中学校までお気軽にご連絡ください。

今年度の案内がまだ届いていないもの

- ・公立学校の就学支援金制度 → 昨年度のを P12 に掲載
- ・高等学校就学支援金制度 → P13, 14 に掲載 ※私立高等学校等に在学する生徒が対象
- ・学費補助金 → P15 に掲載 ※県内の私立高等学校等に在学する生徒が対象

今年度の案内がすでに届いているもの

- ・交通遺児育英会奨学金制度
保護者が交通事故で死亡・重度後遺障害となったご家庭のお子様を対象。月額2～4万円（一部給付あり）、入学1次金20～60万円を貸与。返還は最長20年。
- ・あしなが高校奨学金
保護者が、病気や災害（道路上の交通事故を除く）、自死などで死亡、または保護者が1～5級の障がい認定を受けていて、経済的な援助を必要としている家庭のお子様を対象。月額3万円（給付）入学一時金30万円を貸与する制度あり。変換は最長20年

→希望するご家庭は必要書類をお渡ししますので担任にお申し出ください。その他の奨学金情報を知りたい方は、P16をご覧ください。

參考資料

卒業生の主な進学先

公立（神奈川県立）

麻生高等学校	麻生総合高等学校	麻溝台高等学校
生田高等学校	生田東高等学校	市ヶ尾高等学校
荏田高等学校	川崎高等学校	川崎北高等学校
川和高等学校	港北高等学校	川崎工科高等学校
相模原弥栄高等学校	新城高等学校	菅高等学校
住吉高等学校	多摩高等学校	向の丘工業高等学校
大和高等学校	百合丘高等学校	横浜修悠館高等学校

公立（川崎市立）

川崎総合科学高等学校	幸高等学校	高津高等学校
橘高等学校		

公立（横浜市立）

東高等学校	横浜サイエンスフロンティア高等学校
-------	-------------------

私立（推薦・専願・併願・一般）

青山学院高等部	英理女子学院高等学校	桜美林高等学校
大西学園高等学校	大森学園高等学校	科学技術学園高等学校
錦城高等学校	麴町学園女子高等学校	佼成学園女子高等学校
光明学園相模原高等学校	駒沢学園女子高等学校	駒澤大学高等学校
駒場学園高等学校	相模女子大学高等部	品川学藝高等学校
品川翔英高等学校	自由が丘高等学校	杉並学院高等学校
青稜高等学校	専修大学附属高等学校	大東学園高等学校
拓殖大学紅陵高等学校	橘学苑高等学校	玉川聖学院等学校
多摩大目黒高等学校	中央大学附属横浜高等学校	鶴見大学附属高等学校
桐光学園高等学校	桐蔭学園高等学校	東海大学附属高輪台高等学校
東京高等学校	東京実業高等学校	東京都市大学等々力高等学校
東京農業大学第一高等学校	トキワ松学園高等学校	二松学舎大学附属高等学校
日本学園高等学校	日本工業大学駒場高等学校	日本女子大学附属高等学校
日本体育大学荏原高等学校	日本大学高等学校	日本大学藤沢高等学校
白鵬女子高等学校	羽田国際高等学校	フェリシア高等学校
武相高等学校	文教大学附属高等学校	法政大学第二高等学校
朋優学院高等学校	明星高等学校	目黒学院高等学校
目黒日本大学高等学校	八雲学園高等学校	山手学院高等学校
横須賀学院高等学校	横浜高等学校	横浜商科大学高等学校
横浜清風高等学校	横浜創学館高等学校	横浜隼人高等学校
立教新座高等学校		

特別支援学校・専修学校・技能連携校（サポート校）など

高津支援	中央支援	S 高等学校
N 高等学校	鹿島学園高等学校	クラーク記念国際高等学校
星槎国際高等学校	第一学院高等学校	屋久島おおぞら高等学校
ヒューマンキャンパスのぞみ高等学校		野田鎌田学園横浜高等専修学校

公立高等学校の入学者選抜制度（共通選抜）

1 令和7年度神奈川県公立高校の入学者の募集および共通選抜の主な日程

[募集期間]	令和7年1月23日（木）から1月29日（水）まで
[志願変更期間]	令和7年2月4日（火）から7日（金）まで
[学力検査等の期日]	令和7年2月14日（金）
[特色検査の期日]	令和7年2月14日（金）、17日（月）、18日（火）
[追検査の期日]	令和7年2月20日（木）
[合格者の発表]	令和7年2月28日（金）

2 公立高等学校の入学者選抜制度

① 共通選抜の選考資料

【学習の記録】 2学年の9教科の評定合計点（45点） + 3年生進路期の9教科の評定合計点（評定）を2倍した点数（90点）の合計135点満点の数値です。

ただし教科ごとの点数を2倍まで重点化する学校があります。（3教科まで）

【学力検査】 基本的に英語・国語・数学・理科・社会の5教科の数値を使用します。教科の得点を2倍まで重点化する学校があります。（2教科まで）

各教科の満点は100点、検査時間は50分で、マークシートによる記号選択式の問題と記述式の併用となっています。

【主体的に学習に取り組む態度】

各教科における第3学年の「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、評価Aは3点、評価Bは2点、評価Cは1点に換算し、9教科の合計27点満点の数値です。

【特色検査】 実技検査または自己表現検査、面接を実施する高校があります。

② 選考の方法

第一次選考 * 募集定員の90%をS1値で選考

第二次
選考10%

【第一次選考】 第一次選考では、募集定員の90%を決定します。

【学習の記録】 + 【学力検査】 + 【特色検査】 で選考します。

* 特色検査は実施した高校のみ選考資料となります。

* 【学習の記録】 【学力検査】 の比率は各高校によって異なります。

* 【学習の記録】 と 【学力検査】 で一部の教科が重点化されることがあります。

【第二次選考】 第二次選考では、募集定員の10%を決定します。

【学力検査】 + 【主体的に取り組む態度】 + 【特色検査】 で選考します。

* 特色検査は実施した高校のみ選考資料となります。

* 【学力検査】 【主体的に取り組む態度】 の比率は各高校によって異なります。

* 【学力検査】 で一部の教科が重点化されることがあります。

② 選考の方法 つづき

【選考資料の計算方法】

○学習の記録(評定)の扱い

A = (第2学年の9教科の評定の合計) + (第3学年の9教科の評定の合計) × 2

※教科ごとの評定合計を一定の範囲(3教科まで、各2倍以内)で重点化することがあります。

・ Aを100点満点に換算した数値を(a)とします。

○学力検査の結果の扱い

B = 学力検査(3から5教科)の各教科の得点合計

※教科ごとの得点を一定の範囲(2教科まで、各2倍以内)で重点化することがあります。

・ Bを100点満点に換算した数値を(b)とします。

○「主体的に取り組む態度」の結果の扱い

C = 「主体的に取り組む態度」の評価 Aを3点、評価 Bを2点、評価 Cを1点として9教科の合計

・ Cを100点満点に換算した数値を(c)とします。

○特色検査の結果の扱い

D = 観点ごとの得点合計

・ Dを100点満点に換算した数値を(d)とします。

◆第1次選考…次の数値S1により募集人員の90%まで選考します。

○合計数値S1の算出式

$S1 = (a) \times f + (b) \times g$ (f, gは合計が10となるそれぞれ2以上の整数とし、各学校が定めます。)

※特色検査を実施した場合は、 $S1' = (a) \times f + (b) \times g + (d) \times i$ (iは1以上5以下の整数)

【資料の整わない者の選考】

○参考にてできる資料に基づいて、第1次選考の合格者と比較して選考します。

◆第2次選考…「第1次選考」及び「資料の整わない者の選考」において合格となっていない者の中から次の数値S2により募集人員まで選考します。

○合計数値S2の算出式

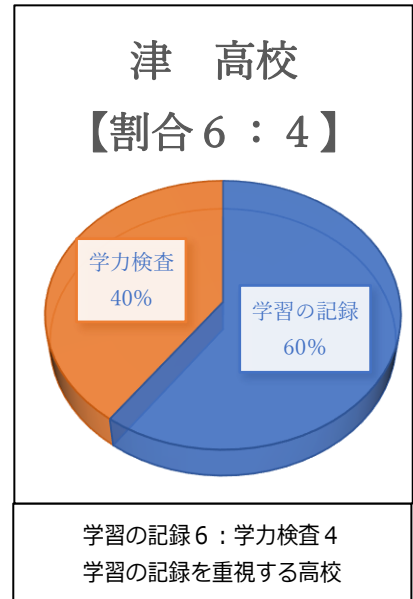
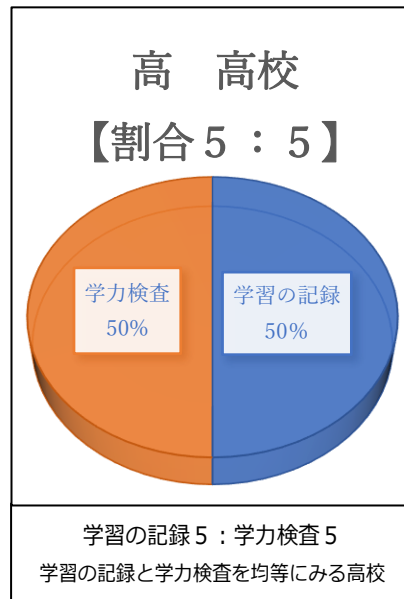
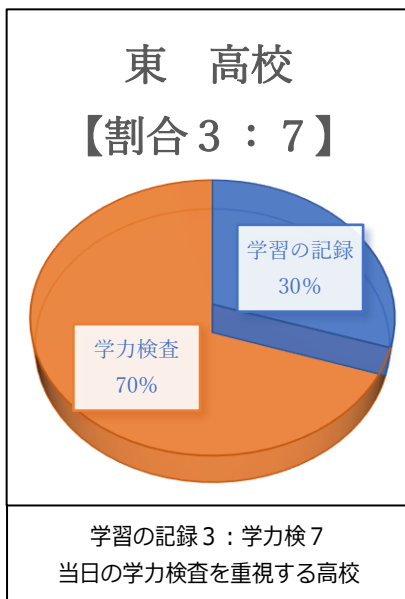
$S2 = (b) \times g + (c) \times h$ (g, hは合計が10となるそれぞれ2以上の整数とし、各学校が定めます。)

※特色検査を実施した場合は、 $S2' = (b) \times g + (c) \times h + (d) \times i$ (i'は1以上5以下の整数)

f: 「学習の記録(評定)」の比率 g: 「学力検査」の比率
h: 「主体的に学習に取り組む態度(評価)」の比率 i: 「特色検査」の比率

③ 選考基準の例

A【学習の記録(評定)】, B【学力検査】の割合 (上のf, gの値です)



④ 選考資料の計算例

◆第1次選考

$S1 = (a) \times f + (b) \times g$ (f、gは合計が10となるそれぞれ2以上の整数とし、各学校が定めます。)

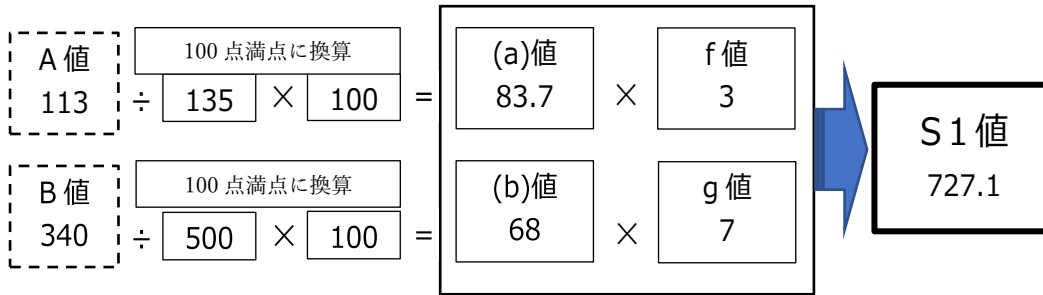
【学習の記録(評定)】

2年	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技家	合計	A 値 113
	4	3	4	5	4	4	5	3	5	37	
3年	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技家	合計	B 値 340
	5	3	4	5	4	5	5	3	4	38 × 2 = 76	

【学力検査】

国語	社会	数学	理科	英語	合計	B 値 340
75	60	70	75	60	340	

<学習の記録3：学力検査7のS1値 計算例>



◆第2次選考

$S2 = (b) \times g + (c) \times h$ (g、hは合計が10となるそれぞれ2以上の整数とし、各学校が定めます。)

【学力検査】

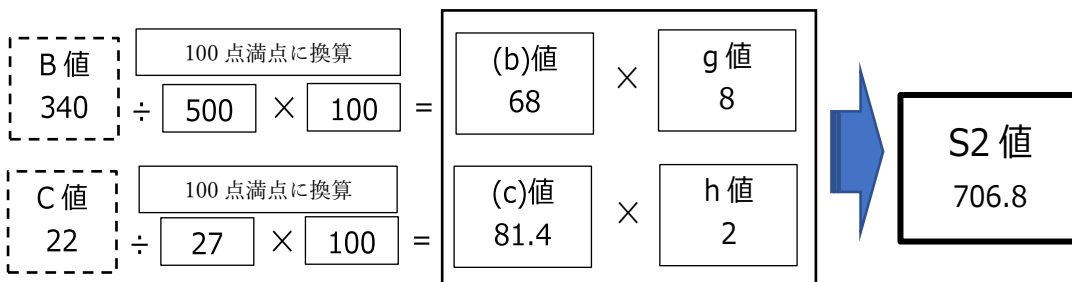
国語	社会	数学	理科	英語	合計	B 値 340
75	60	70	75	60	340	

【主体的に学習に取り組む態度】

3年	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技家	合計	C 値 22
	A	A	B	A	B	A	A	B	B		
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓		
	3	3	2	3	2	2	3	2	2	22	

※A° は A、C° は C になります。

<学力検査8：主体的に取り組む態度2のS2値 計算例>



3 公立高等学校の通学区域について

【県立および横須賀市立の高校】 県内どこからでも志願できます。

【横浜市立および川崎市立の高校】 それぞれの市内を学区としている学校・学科があります。
(ただし、学区のある学校においては、学区外からでも募集定員の一定の割合まで入学できる枠を設けています)

【横浜市立の高校】 一部の学校・学科を除き、横浜市内が学区となります。

* 学区のない学校・学科・コース

横浜商業高校の全学科および別科 横浜サイエンスフロンティア高校の理数科

戸塚高校の全日制課程普通科音楽コース 戸塚高校の定時制課程普通科

【川崎市立の高校】 普通科（全日制・定時制の課程）は川崎市内在学区となります。

<川崎市立の高等学校を受検する際、受検者と保護者の方の住所が異なる場合や市外から通学している場合、または来年の4月までに市外に転居予定の方は「学区確認申請」が必要となる場合があります。早めに担任までお知らせください。>

公立高等学校の就学支援金制度の概要

※昨年度募集要項より抜粋

県立、市立共通の制度

(内容については改定する場合がありますので事前に確認してください。)

公立高等学校は原則として授業料を徴収しますが、申請の手続をすることにより、授業料の負担がなくなる場合があります。

○ 対象となる方

以下の算定式により計算した額が、30万4,200円未満（年収910万円程度未満）の世帯の生徒 **【算定式】(市町村民税の)課税標準額×6% - (市町村民税の)調整控除の額**
(ただし政令指定都市は、調整控除の額に3/4を乗じる)

○ 支給額

全日制：(年額) 118,800円 定時制：(年額) 32,400円

通信制：1単位336円

※ 生徒は授業料を納めることなく、学校が生徒に代わって国より就学支援金を受領し、授業料に充てます。(実際に支給額が支給される制度ではありません。)

※ 通信制については、受講料の納付後、年度末に還付します。

○ 手続について

入学する高等学校で合格発表時にお知らせ等を配付します。

申請は、オンライン申請システムにより、入学する高等学校に申請します。申請にあたっては、マイナンバーが必要です。(マイナンバーにより「市町村民税の課税標準額」と「市町村民税の調整控除額」を確認します)

◇ 対象となる方は必ず手続をしてください。手続が行われないと授業料をご負担いただきます。

○ 問合せ先 各高等学校の事務室

または 県教育委員会財務課財務指導グループ TEL (045)210-8113(直通)

※ 手続は各高等学校で行います。

私立高等学校等の学費支援

※神奈川県よりリーフレットが配付される予定です。詳細は資料をご確認ください。

各制度の補助額

年収は目安です。審査の際は所得区分（住民税に基づく基準額を用いた計算の結果）で判断されます。所得区分の確認方法は4ページをご覧ください。

	授業料補助		入学金補助		
	① 高等学校等就学支援金(国)	② 学費補助金(県)	② 学費補助金(県)		
年収目安 「モデル世帯」	生活保護～ 住民税非課税世帯	396,000円 (通信制 297,000円)	+ 72,000円 (通信制 171,000円)	211,000円	→ 授業料 468,000円 入学金 211,000円
	270万円～ 590万円未満	396,000円 (通信制 297,000円)	+ 72,000円 (通信制 171,000円)	100,000円	→ 授業料 468,000円 入学金 100,000円
	590万円～ 700万円未満	118,800円	+ 349,200円	100,000円	→
	700万円～ 750万円未満	118,800円	+ 74,400円	100,000円	→ 授業料 193,200円 入学金 100,000円
	多子世帯	118,800円	+ 349,200円	100,000円	→ 授業料 468,000円 入学金 100,000円
	750万円～ 910万円未満	118,800円			→ 授業料 118,800円
	多子世帯	118,800円	+ 349,200円		→ 授業料 468,000円

※モデル世帯…両親・高校生・中学生の4人家族で、両親の一方が給与所得者として働いている世帯
 ※多子世帯…23歳未満の扶養している子どもが3人以上いる世帯

授業料補助額や、入学金補助額が学校の授業料や入学金を超える場合、超えた金額は支給されません。

授業料の場合

高等学校等就学支援金 396,000円	学費補助金 44,000円	28,000円 ← 支給されません
学校の授業料 440,000円		支給される額

イメージ (例: 590万円未満の世帯の場合) 授業料 < 支援金 + 補助金

対象となる制度をご確認ください。

高等学校等の所在地によって申請できる制度が異なります。

住所	高校等所在地 ※1	① 高等学校等就学支援金	② 学費補助金(県) ※2
[生徒・保護者等ともに] 県内在住	県内設置	○	○
	県外設置	○	×

※1 通信制の場合は本母校の所在地で判断します。

※2 生徒・保護者等ともに県内在住、かつ県内設置の私立高等学校等に通う生徒が対象となります。

・ 単身赴任の場合には、対象とならない場合があります。詳細はお問い合わせください。

1

高等学校等就学支援金

●国の制度 ●返還不要

お申込み

新1年生	2・3年生
4月/6月頃(2回)	6月頃

■高等学校等就学支援金		
年収の目安	所得区分	授業料補助 (年額)
	令和6年度の「市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額」※1	
生活保護	(令和6年1月1日時点で生活保護)	396,000円 (通信制297,000円)
非課税～ 590万円未満	154,500円未満	
590万円～ 910万円未満	304,200円未満	118,800円

私立高等学校等に在学する生徒が、家庭の状況にかかわらず安心して勉学に打ち込めるよう、授業料を補助する制度です。

- ▶ 私立高等学校等に通う生徒が対象となります。県外の私立高等学校等に通う場合は、学校が設置されている都道府県に申請します。
- ▶ 解雇や病気で働けないなど、やむを得ない理由(定年退職を除く)によって家計が急変した場合の家計急変支援制度もあります。

※1 父母の合計額です。政令指定都市の場合は、「調整控除の額」に3/4を乗じます。年収はあくまで目安です。
令和6年4月～6月分の授業料補助については、令和5年度の税額で判定します。

生徒が早生まれの場合

生徒の生年月日が以下の表に該当し、保護者等が当該生徒を自己の扶養親族としている場合は①のとおり計算します。それ以外の保護者等は②のとおり計算します。

計算方法

- ① (市町村民税の課税標準額－33万円) × 6%－市町村民税の調整控除の額
- ② (市町村民税の課税標準額) × 6%－市町村民税の調整控除の額

生徒の生年月日	①を使う期間
平成19年1月2日～4月1日	令和6年4月分～令和6年6月分(3か月分)
平成20年1月2日～4月1日	令和6年7月分～令和7年6月分(12か月分)

2

学費補助金

●県の制度 ●返還不要

お申込み

全学年
6月頃

NEW!

令和6年度から多子世帯の要件が緩和されました

■学費補助金			
年収の目安	所得区分	授業料補助 (年額)	入学金補助 (入学年度の1回のみ)
	令和6年度の「市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額」※1		
生活保護	令和6年1月1日時点で生活保護	72,000円 (通信制171,000円)	211,000円 (上限額)
非課税	「県民税・市町村民税の所得割額の合算額」が0円※2		
270万円～ 590万円未満	154,500円未満	349,200円	100,000円 (上限額)
590万円～ 700万円未満	203,100円未満		
700万円～ 750万円未満	227,100円未満		
多子世帯※3	227,100円未満	349,200円	
750万円～ 910万円未満	304,200円未満	対象外	対象外
多子世帯※3	304,200円未満	349,200円	

私立高等学校等に在学する生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、入学金・授業料を補助する制度です。

- ▶ 生徒・保護者等ともに県内在住、かつ県内設置(通信制の場合、本母校が県内設置)の私立高等学校等に通う生徒が対象となります。
- ▶ 保護者等が国外在住等により、市町村民税の課税標準額や調整控除の額を確認できない場合は対象となりません。
- ▶ 対象校は県のホームページをご覧ください。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3e/jyosei/gakuhisien/index.html>

※1 父母の合計額です。政令指定都市の場合は、「調整控除の額」に3/4を乗じます。年収はあくまで目安です。

生徒の生年月日が「平成20年1月2日～4月1日」の場合は「①高等学校等就学支援金」の「生徒が早生まれの場合」の「計算方法①」のとおり計算します。

※2 父母の合計額です。非課税世帯は「市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額」では判定しません。

※3 多子世帯とは23歳未満の扶養している子どもが3人以上いる世帯です。

非課税世帯、生活保護（生業扶助）受給世帯が対象です。

お申込み
全学年
7月以降

神奈川県高校生等奨学給付金

● 県の制度 ○ 返還不要

神奈川県にお住まいの高校生等の保護者等に対して、授業料以外の教育費負担を軽減する制度です。（県外の高等学校等に通う場合も申請できます。）

次の①～③すべてに該当する世帯が対象です。

- ① 保護者等が神奈川県に在住
- ② 生徒等が令和6年7月1日現在、私立高等学校等に在学
- ③ 「生活保護（生業扶助）を受けている世帯」又は
「保護者等全員の令和6年度の県民税・市町村民税所得割額の合計額が0円（非課税）の世帯」

- ▶ 家計急変により、非課税相当となる世帯に対する給付もあります。
- ▶ 所得割額の合計が0円（非課税）であれば、均等割額が課税されていても対象となります。



3 神奈川県高校生等奨学給付金

		(令和6年7月1日時点で生活保護の生業扶助を受けている)	52,600円
令和6年度の県民税・市民税所得割額が0円(非課税)	全日制・定時制の学校	中学生を除く15歳以上23歳未満の扶養している兄弟姉妹がいる第1子、またはいない	142,600円
		中学生を除く15歳以上23歳未満の扶養している兄弟姉妹がいる第2子以降	152,000円
	通信制・専攻科の学校		52,100円

申請の方法

1

高等学校等
就学支援金

高校等に入学後、学校を通じて申請します。

※申請の具体的な方法は、学校を通じてご案内します。

■ 「高等学校等就学支援金」や「学費補助金」は、学校が生徒や保護者等の方に代わって受け取り、授業料と相殺します。学校によっては、いったん授業料を納め、後日返還する場合があります。

■ 返還の時期や方法は学校により異なりますので、詳細は **学校に直接お問い合わせください。**

2

学費補助金

3

神奈川県
高校生等
奨学給付金

県内
の学校

▶ **申請書は学校が配付。** ▶ **申請書に記入し、添付書類とともに学校へ提出。**
(申請者が指定した振込口座に、県から直接振り込みます)

県外
の学校

▶ **申請書は申請者自身が県のホームページから取得。**(令和6年6月下旬以降更新予定)
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3e/jyosei/gakuhisien/syougakukyuuukinn.html>

▶ **申請者自身が添付書類とともに県へ直接郵送。**
(申請者が指定した振込口座に、県から直接振り込みます)

申請書HP▶



日本に奨学金は 5000種類以上 では、あなたが使える奨学金は？

日本にはたくさんの奨学金がありますが、自分の条件にあう奨学金を見つけるのはちょっと大変。
そこであしなが育英会は、あなたの進学を応援するために、ピッタリの奨学金を探せるサービスをつくりました。

奨学金で進学を

日本には 5000 種類以上の奨学金制度が存在します。卒業後に返還が必要な「貸与型」だけでなく、返還の必要がない「給付型」もたくさんあります。
Canpass を使えば、数ある奨学金の中からあなたに合ったものを検索することが可能です。

あしなが育英会

日本学生支援機構

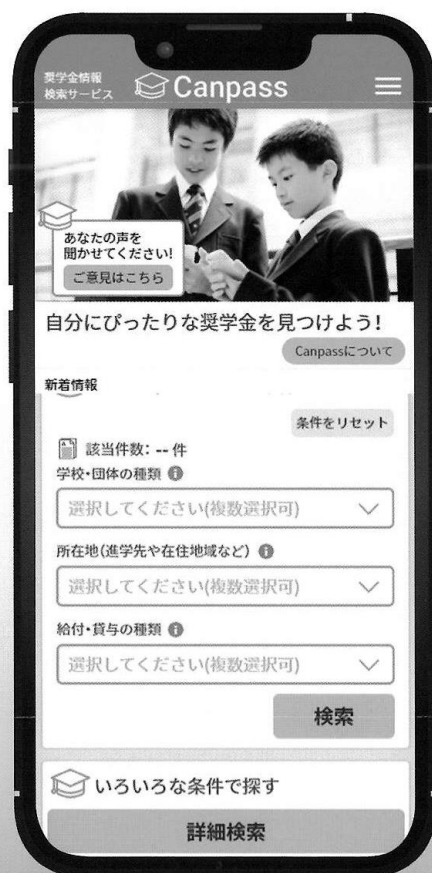
自治体の奨学金

大学独自の奨学金

民間団体の奨学金

登録不要でだけでも

Canpassの利用に登録は不要です。
あしなが奨学生でなくても利用可能ですので、奨学金を探している友達がいたら、ぜひ教えてあげてください。



スマホで簡単検索

スマホで下のQRコードを読み取って Canpass にアクセス！
あとは条件を選んで「検索」を押すだけです！
大学での専攻や住んでいる地域、貸与か給付かなどの条件を指定して、奨学金を探すことができます。



▲スマホで読み取り

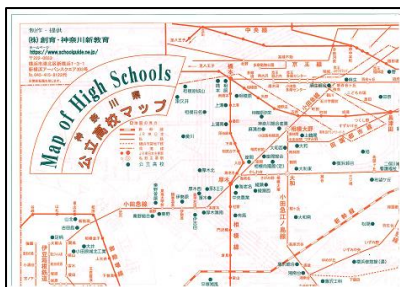
パソコンからは

あしなが Canpass

奨学金情報検索サービス
Canpass

Canpass についてのお問い合わせは canpass@ashinaga.org まで

創育・神奈川新教育「神奈川県公立高校マップ」「神奈川県・東京都および近郊私立高校マップ」



どの駅にどんな高校があるのか一目でわかるマップです。

まずは、ご家庭から通える範囲にどのような高校があるのかご確認ください。

表面は公立、裏面は私立のマップになっています。

今年度Wもぎが中止になっている関係で、このマップは本来、配付予定はありませんでした。創育・神奈川新教育様のご厚意で配付させていただけることになりました。

声の教育社「合格ばすぽーと」



昨年度の「神奈川県公立高校入試の情報」や「私立・国立入試の応募状況」、「私立学費一覧」が掲載されています。

「スクールメッセージ2024京浜エリア」



私立高校の情報(私立の魅力や用語集、学校説明会一覧、部活動一覧、学費負担を軽減する制度など)が掲載されています。

神奈川新教育「W_information」



高校入試全般(高校ってどんなところ、高校の種類、高校の学科・コース、入試用語)や神奈川県公立高校、私立・国立高校の一覧が掲載されています。

第3学年保護者様

川崎市立東高津中学校
 校長 矢澤 匡彦
 進路主任 近藤 伸一

見本

第1回 進路希望調査

3年 組 番 氏名

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

中学卒業後の進路希望について、次のア、イ、ウのうち、あてはまる記号を○で囲み、さらに表の中のあてはまる場所に○をつけてください。また、現時点で具体的に考えている（または興味をもっている）高等学校等があれば、〔 〕に名称を記入してください。

ア 国公立の全日制・定時制・通信制の高校への進学を第一希望としている

全日制 普通科			全日制 専門学科								全日制 単位制		
市内	市外	他県	商業系	農業系	工業系	理数系	福祉	国際	体育	その他	普通科	専門学科	総合学科

高等専門学校 (5年制高専)	定時制			通信制	インクルーシブ 教育実践推進校	特別支援学校 (含む分教室)
	普通科	総合学科	専門学科			

第1希望 〔 立 高等学校 制 科〕
 第2希望 〔 立 高等学校 制 科〕

★併願校として私立高校の受験を (希望する ・ 希望しない)

(希望する場合)

第1希望 〔 高等学校 科 コース〕
 第2希望 〔 高等学校 科 コース〕

イ 私立の全日制・通信制などの高等学校への進学を第一希望としている。

普通科	専門学科									広域通信制 (サポート校)	高等専修学校
	商業系	工業系	情報系	家庭系	音楽	国際	看護	運輸	その他		

☆推薦による受験を (希望する ・ 希望しない)

第1希望 〔 高等学校 科 コース〕
 第2希望 〔 高等学校 科 コース〕

★併願校 〔 立 高等学校 制 科〕

ウ 就職や職業技術校、高等課程の無い専修学校などを希望する。

就職	職業技術校	各種専修学校	就職+定時制	就職+通信制	その他

☆就職先の職種や学校名が決まっている人は具体的に書いてください。

〔 〕

裏面へ続く

生徒記入欄

進路について、「不安に思っていること」「分からないこと」「相談したいこと」などがあれば記入してください。

保護者記入欄

保護者名 _____ 印 _____

表面に書かれた、お子さまの進路の希望について、どのようにお考えですか。どちらかを○で囲ってください。

(子どもの意見に賛成である ・ 子どもの意見に賛成できない)
※その理由を↓にお書きください

◎ ご質問、ご意見があればお書きください。

現時点での希望をご記入ください。今回の進路希望調査は、7月の三者面談の中でも話題にさせていただく予定です。

7月4日(木)締め切り